

キャラクター名
心野 知代 (こころの ともよ)

プレイヤー名

シンドローム	ブラックドッグ エンジェルハイロウ		ワークス	UGN支部長D	カヴァー	小学生
	オプショナル ノイマン		年齢	不詳 (外見12)	性別	女
覚醒	死	衝動	闘争	初期侵食率	38 %	
出自	天涯孤独	経験	無為	邂逅	同行者	

	基本値	ワークス	ボーナス	成長	他修正	能力値	HP	26
肉体	2	0	0			2	行動値	14
感覚	4	0	2			6	(非装備時)	14
精神	2	0	0			2	戦闘移動	19
社会	0	1	1			2	全力移動	38

肉体			感覚			精神			社会		
技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正	技能	SL	修正
白兵			射撃	4	+6	RC			交渉	1	
回避			知覚			意志	1		調達	4	
運転:			芸術:			知識:			情報: UGN	2	
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		
運転:			芸術:			知識:			情報:		

武器・コンボ	能力	命中値	G値	攻撃力	射程	メモ
リニアキャノン	射撃	6r+8		8		《ハードワイヤード》で取得。敵ドッジD-2
ホルトアクションライフル	射撃	6r+10		8		マイナー消費で達成値+5。同工不可
コンボ`【ハッパワーク・カノン】	射撃	6r+8		16		コンセ+マルチウエポン。上記を引き継ぐ

防具	価格	装甲	回避	行動	メモ

所持品	
ロックオンサイト	
ウエポンケース	
携帯電話	
制服	
アクセサリ	

合計装甲: 0 合計回避: 0

ロイス				
対象	感情(pos)	感情(neg)	タイ	消費
理解者	P 尽力	N 不快感		
隣人	P 誠意	N 憐憫		
玉野椿	P 好意	N 嫉妬		
セティボス	P 執着	N 脅威		
科戸空	P 憧憬	N 敵愾心		
霧谷雄吾	P 感服	N 嫌気		
アシュレイ・ホライゾン	P 遺志	N 恥辱		

最大財産P: 12 残り財産P: 1

スキル名	SL	コスト	タイミング	射程	対象	判定	制限	メモ
ワーディング	★	-	オート	視界	シーン	自動	-	
効果:	非オーヴァードのエキストラ化							
リザレクト	0	1d10	気絶時	-	自身	自動	↓100	
効果:	コスト分のHPで復活							
コンセプト:ノイマン	2	2	Xジャー	—	—	SD	—	
効果:	C値-Lv (下限7)							
マルチウエポン	1	3	Xジャー	武器	—	射撃	—	
効果:	ふたつの武器を同時に使用							
ハードワイヤード	4	—	常時	至近	自身	自動	—	
効果:	専用アイテムをLv個常備。基侵+4							
ファンアウト	2	4	セット	至近	範(選)	自動	—	
効果:	己以外を戦闘移動。ソリLv回							
猟犬の鼻	★	—	Xジャー	至近	自身	自動	—	
効果:	電子顕微鏡並み超知覚&記憶							
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								
効果:								

【経歴】
 この世界にありふれた紛争地帯で生まれ、育つ。
 物心ついた時には傭兵として銃を手に持っていたし、生きる糧として誰かの命を奪う行為に疑問を覚えることも無かった。
 いや、どうなのだろう。
 今の知代を構成する重要なピースの一環ながら、いまだに知代はこのころの自分が自分で把握しきれていない。
 クソ見たいな環境だとわかってはいた。周囲のみんなそう言っていたから。
 でも、戦場でたまに巡り合う理解者のことを考えると、消し去りたい過去かと問われれば否と、わりと悩まずに答えられる気がする。
 たとえ次の日にはその理解者の頭に鉛玉たたき込むことが珍しくなかった場所だったとしてもだ。

ひとつめの転機は未知との遭遇。
 理不尽でない戦場など存在しないが、理解不能な化け物に魔法じみた不思議パワーで部隊丸ごと木っ端みじんになるなどそう無い。
 生き残ったのはふたり。目が覚めたのは知代だけだった。オーヴァードへの覚醒がその差を分けた。
 もっとも、粉々になった身体を機械で補い無理やり繋ぎ合わせた結果、幼子のような体格に再構成されてしまっていたが。
 彼女の所属していた部隊を壊滅させたのはFHなる組織だとか、世界の真実だとか。
 彼女を治療したUGNなる組織にいろいろ説明されたがよくわからなかった。ただ、自分がアレと同じ化け物になったということだけは理解できた。
 UGNの協力要請を受けたのは復讐心や正義感ではない。自身の治療費と、意識を取り戻す見込みのない仲間の入院費用を稼がねばならなかったからだ。
 さして仲がいいというわけでもなかった、その日たまたま部隊を共にしていただけの相手の面倒を見ようと思ったのだろうか。
 憐憫だろうか？ これもよくわからないまま少なくない金額を支払い続けている。

ふたつめの転機はUGNの中で。
 なにぶん戦場以外のことを知らなかったで、外見的に違和感が無かったことも手伝いチルドレンに混ざって教育を受けることになる。
 何も無かった少女は訓練教官であった“シルクスパイダー”玉野椿を指針にすることにした。その人間らしさに好感を抱きつつ嫉妬した。